

令和6年度地域版ぎふ木育プログラム開発事業 成果報告書

1. プログラム概要

事業名称	命について考える木育を通した平和教育
題材とする地域	岐阜地域（各務原）
事業概要 （200字程度）	岐阜地域（各務原）の特徴的な産業である航空産業と、木や岐阜の木の文化との繋がりを、作る視点から掘り下げていく「平和教育プログラム」を開催する。本プログラム実施において、教材に対する理解と刃物の指導補助の仕方を含めたサポーター養成講座を実施し、参加者が安心して刃物を使える体制も整える。

2. 提案者

氏名または名称	NPOmusubi
住所	
（法人・団体の場合） 代表者の職・氏名	代表 吉田理恵
連絡先電話番号	
連絡先メールアドレス	

3. プログラム 企画書

① タイトル	巡り回る～命とプロペラ～
② 設定時間	木育プログラム（3時間）
① ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・オニクルミという森の恵みを、（嘗ては、銃床や戦闘機のプロペラに）人が選択した木の歴史に触れ、人と木の命（平和教育）について考える。 ・プロペラの形状をヒントにしたナイフづくりを通して、適材適所について体感する。
③ 主な対象者	小学校3年生～大人
④ 参加人数	10名（定員10名） 主講師1名 副講師1名 サポーター4名
⑤ プログラム進行	<p>○導入（20分）</p> <p>① オニクルミと人の暮らしと歴史（樹から木について）</p> <p>② 小刀の使い方について</p> <p>○展開（80分）</p> <p>□作り方の説明</p> <p>①完成イメージの決定 プロペラの機能について</p> <p>②ヤスリによる成形</p> <p>② 紙やすりによる仕上げ</p> <p>③ クルミオイルによる塗装</p> <p>○まとめ・クロージング（20分）</p> <p>動画視聴</p> <p>ふりかえりシートを記入</p>
⑦必要用具等	<p>□プロペラナイフ教材 □名札（養生テープ） □PC+プロジェクター</p> <p>□鉛筆 B～4B □小刀 □削り台 □平面サンダー □曲面サンダー</p> <p>□新聞紙 □紙ヤスリ #150（2枚）#220（2枚）</p> <p>□塗装セット（ウエス、輪ゴム、ゲンノウなど）</p> <p>□プロペラナイフ工程サンプル □制作資料 □オニグルミの実サンプル</p> <p>□アンケート □プロペラナイフサンプル ※サポーター作成サンプル</p>
⑧現時点で想定する参加費	2,000円/人

4. 審査項目に関する事項（試行・開発後）

（1）有効性

“森の恵み”である木材を「人は何のために利用してきたか？」について、木でつくることを通して、日常生活（暮らし方）や木の道具について振り返って考えることをねらいとした。このプログラムは、小刀を使う教材である上、プロペラの形状も複雑なため、作る時間が多くかかると予想されたため、動画で伝えるという手法を取った。「クルミ」は食べるイメージが強く、樹皮の籠や銃床に使われていたことを知らない人の方が多く驚いていた。実物を見せるのが一番良いがそれができない中で映像で伝えることができたことが良かった。

また、塗装をクルミの実で実際に塗ってもらうことができた。参加者の中にクルミアレルギーの方がいなかったことが幸いで実行できたが、今後は参加者の状況によって、できるできないが決まるので、体験機会にばらつきが出る。本来ならクルミを割って中を取り出し、布に包んで潰すまで体験させたかったが、時間の関係で短縮させることになった。プログラムにかかる時間や教材の下準備など検討していく必要がある。

なぜ各務原なのか？なぜオニクルミでプロペラなのか？なぜ平和教育なのか？というところが動画の中でも弱かったと感じている。今後修正したい部分である。プロペラに関しては許可の関係で動画の中にプロペラを入れ込むことが難しかったため、県民への啓発のためにも県の力添えももらいながら実現したいところである。

※当プログラムにより、地域の自然、伝統、森や木の文化とどのようにつなげることができるかについて説明すること。

（2）新たな着眼点、アイデア、工夫、独創性

今回の開発では『岐阜かかみがはら航空宇宙博物館』での実施を目指したが、施設の都合で実現はかなわなかった。また、航空機製造に関わる企業から写真の利用許可は取れたが動画に入れ込むのは間に合わなかった。一方、岐阜県博物館が所蔵する銃の撮影や動画の利用許可をもらえたことは非常にありがたかった。また、会場を探すにあたり各務原市役所に相談に行ったところ、まちづくり推進課の支援相談員の方が親身になって相談に乗って下さり、ボランティア団体を紹介して下さった。サポーター養成は大人数ではなかったため、個別で声掛けをして募集。航空機に精通された方と繋がり、関係者にお声がけくださって、サポーター養成講座では想定以上の本格的なプロペラの説明を聞くことができた。木青会の代表の方にもお声がけをお願いしたが、イベントの時期と重なっていたこともあり、参加してもらうことはできなかったが、今後の可能性を感じられる話し合いができた。

※当プログラムに盛り込んだ新たな着眼点、アイデア、工夫、独創的な点などについて説明すること。

(3) 適合性

ステップ3 「調べる、理解する」 小学校3年生～

- ・サポーターが寄り添うことで、難解語句を解説してもらったり、小刀の使い方なども手元で手本を見せてもらうことで、理解しやすくなった。

ステップ4 「考える、判断する」 中学生～大人

- ・プロペラの形状を実際に手で加工してみて、形の複雑さや揚力と形の関係性について自分なりに考えた。
- ・木材が宇宙産業の分野でも重要な役割を果たし始めていることを知り、木材に何ができるのか、未来を想像して調べたり考えたりすることができた。

ステップ5、 「参加する、行動する」 6, 「伝える」 高校生以上すべての大人

- ・サポーター（ボランティア）として関わることによって、自身の学びの深淺を知り、もっと学んでみたいという学習意欲につながった。
- ・木材に興味は薄かった人でも、実際に小刀を使ってみることで木材に対しての理解が深まった。
- ・異業種の方が関わってくださったことにより、木材産業への理解や「ものづくり大国」としての日本の在り方についてなど、新しい一面をサポーターから教わることも多かった。

※当プログラムが、「ぎふ木育30年ビジョン」に示す1～6のどのステップを意識しているか、また主にどのような世代や属性を対象として想定しているかについて説明すること。